

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-229223  
(43)Date of publication of application : 24.08.1999

(51)Int.Cl.

A42B 1/06  
A42C 5/02

(21)Application number : 10-039164  
(22)Date of filing : 20.02.1998

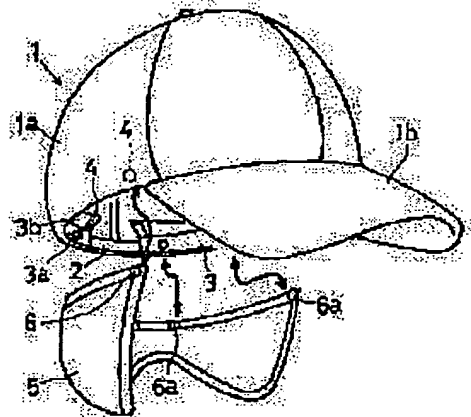
(71)Applicant : SUMITOMO RUBBER IND LTD  
(72)Inventor : TADA YOSHIO

## (54) ARCTIC CAP WITH DETACHABLE EAR COVER

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To solve the problem of sense of incompatibility caused by hooks at the fixing side directly contacting with head parts when wearing an arctic cap without an ear cover because the fixing side hooks are exposed to the interior of the arctic cap when the ear cover is not used in the arctic cap having the detachable ear cover attached by using the hooks or the like.

**SOLUTION:** This arctic cap 1 has fixing side hooks 4 fixed at prescribed plural parts of the inner periphery surface 2 of the edge part of the arctic cap 1. A sweat band 3 is arranged so as to be hung down from the position of the inner side from the edge part of the arctic cap 1 at the inner periphery part 2 of the arctic cap 1 to the edge part of the arctic cap 1 so as to cover the fixed side hooks 4. Plural attaching side hooks 6 capable of detachably fitting into the fixing side hooks 4 are fixed to the outside surface of the upper edge of the ear cover 5.



**BEST AVAILABLE COPY**

### LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 25.05.2000  
[Date of sending the examiner's decision of rejection] 21.02.2003  
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]  
[Date of final disposal for application]  
[Patent number]  
[Date of registration]  
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]  
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]  
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-229223

(43)公開日 平成11年(1999) 8月24日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 4 2 B 1/06

A 4 2 B 1/06

A

A 4 2 C 5/02

A 4 2 C 5/02

A

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平10-39164

(22)出願日 平成10年(1998) 2月20日

(71)出願人 000183233

住友ゴム工業株式会社

兵庫県神戸市中央区脇浜町3丁目6番9号

(72)発明者 多田 熹生

兵庫県神戸市須磨区横尾5丁目2番地59号

棟401号

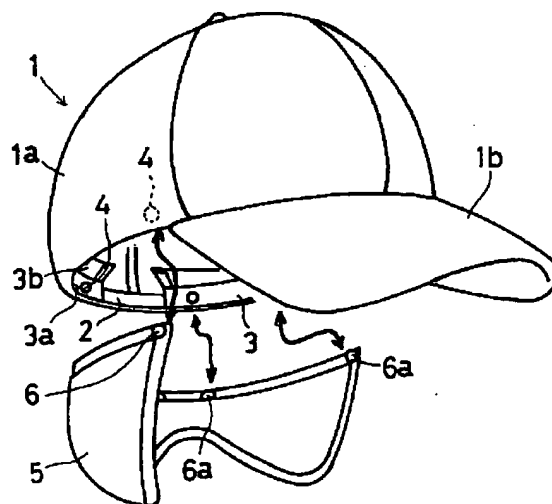
(74)代理人 弁理士 江原 省吾 (外3名)

(54)【発明の名称】 着脱式耳あて付き防寒帽

(57)【要約】

【課題】 ホックなどを使用した着脱式耳あて付き防寒帽において、耳当て不使用時に防寒帽の内側に固定側ホックが露出するため、防寒帽着用時に固定側ホックが頭部に直接当たって違和感がある。

【解決手段】 防寒帽1の縁部内周面2の所定複数箇所に固定側ホック4を固定する。これら固定側ホック4を覆うように、防寒帽1の縁部内周面2における防寒帽縁部よりも内側位置から防寒帽縁部にかけて汗取りベルト3を垂れ下げ配置する。固定側ホック4と対応して、固定側ホック4に着脱自在に嵌合可能な複数の取付側ホック6を耳当て5の上端縁外側面に固定する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 防寒帽の縁部内周面の所定箇所に固定した固定側係止部材と、  
前記係止部材を覆うように、前記防寒帽の縁部内周面における防寒帽縁部の内側位置から防寒帽縁部にかけて垂れ下げ配置した汗取りベルトと、  
前記係止部材に着脱自在に嵌合可能な取付側係止部材を上端縁外側面に固定した耳当てとを有する着脱式耳あて付き防寒帽。

【請求項 2】 前記係止部材と被係止部材が、ホックまたはマジックテープで構成されてなることを特徴とする着脱式耳あて付き防寒帽。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、係止部材と被係止部材によって着脱自在な耳あてを有する防寒帽に係り、特に耳当て不使用時に防寒帽側の固定側係止部材が使用者の頭部に直接当たるのを防止した防寒帽に関する。

## 【0002】

【従来の技術】通常の着脱式の防寒帽は、耳当ての着脱部にホックを使用しており、防寒帽の縁部内周面の所定複数箇所に固定側ホックを設け、これら固定側ホックに対応して耳当ての上端縁外側面の所定複数箇所に取付側ホックを設けている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】ホックを使用した耳あて付き防寒帽は、耳当て不使用時に防寒帽の内側に固定側ホックが露出するため、防寒帽着用時に固定側ホックが頭部に直接当たって違和感があるという問題がある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため本発明の着脱式耳あて付き防寒帽は、防寒帽の縁部内周面の所定箇所に固定した固定側係止部材と、前記係止部材を覆うように、前記防寒帽の縁部内周面における防寒帽縁部の内側位置から防寒帽縁部にかけて垂れ下げ配置した汗取りベルトと、前記係止部材に着脱自在に嵌合可能な取付側係止部材を上端縁外側面に固定した耳当てとを有する。

【0005】ここで係止部材と被係止部材は、着脱自在なホックやマジックテープあるいはファスナーなどで構成することができる。

【0006】このように固定側係止部材を汗取りベルトで覆うようにしておけば、耳当て不使用時でも固定側係止部材が汗取りベルトで隠されて頭部に直接当たらないから、防寒帽着用時に違和感がないし、固定側係止部材が隠れるから体裁上も好ましいものとなる。

## 【0007】

【発明の実施の形態】以下に本発明の一実施形態を図 1 から図 5 に基づいて説明する。図 1 に示すように、防寒帽 1 は防寒帽本体 1 a とひさし部 1 b とを有するキャッ

プ形に構成されている。本体 1 a の頭部回りに接する縁部内周面 2 には、実質的に環状の汗取りベルト 3 が固定されている。この汗取りベルトは、その幅方向片側半分 3 a が本体 1 a の縁部内周面 2 に固定され、残り半分 3 b が縁部内周面 2 よりやや内側位置で折返されて本体 1 a 縁部にかけて垂れ下げ配置されている。なお、汗取りベルト 3 の片側半分 3 b は、図 3 および図 5 に示すように縫合線 7 よりも前側部分で防寒帽 1 の縁部内周面 2 ないし汗取りベルト 3 の片側半分 3 a に固着されている。この部分は固定側ホック 4 がないので汗取りベルト 3 の片側半分 3 b を開く必要がないからである。

【0008】本体 1 a 縁部内周面 2 には、防寒帽 1 の後方側 2 箇所と左右両側 2 箇所の合計 4 箇所に固定側ホック 4 が固定されている。この固定側ホック 4 は、汗取りベルト 3 の半分 3 a を本体 1 a 縁部に共挟みするようにして固定されている。一方、耳当て 5 の上端縁外側面には、図 2 に示すように前記固定側ホック 4 と対応する 4 つの位置に取付側ホック 6 が固定されている。

【0009】耳当て 5 を使用する時は、汗取りベルト 3 の半分 3 b を図 3 のように本体 1 a 内側に向けてめくり上げて固定側ホック 4 を露出させ、これら固定側ホック 4 に耳当て 5 の取付側ホック 6 を嵌合させる。その後、汗取りベルト 3 の半分 3 b を元のように折返して耳当て 5 上端縁内側面を覆い、この状態で防寒帽 1 を着用する。このとき、図 5 のように耳当て 5 上端縁内側面に露出した取付側ホック 6 の裏金 6 a は、汗取りベルト 3 の半分 3 b で覆われて直接頭部に当たらないので快適な着用感が得られる。

【0010】一方、耳当て 5 を外した状態で防寒帽 1 を着用する時は、汗取りベルト 3 を図 4 のように下方に垂らして固定側ホック 4 を汗取りベルト 3 の半分 3 a で覆っておく。これにより固定側ホック 4 が使用者の頭部に直接当たるのを防止して着用時の違和感を防止する。

【0011】なお、汗取りベルト 3 の幅方向各半分 3 a、3 b の互いに対向する面にマジックテープを部分的または全面に貼付しておけば、防寒帽 1 着用時に汗取りベルト 3 が不測にめくれ上がるのを防止できる。また、汗取りベルト 3 の半分 3 b の固定側ホック 4 に対応する位置またはその周辺にマジックテープを貼付しておくと、マジックテープが緩衝材ないし段差解消の働きをして耳当て装着時と非装着時の両方でいっそう快適な着用感が得られる。

【0012】以上、本発明の一実施形態につき説明したが、本発明は前記実施形態に限定されことなく種々の変形が可能であり、例えば前記実施形態では固定側と取付側にホック 4、6 を使用したが、これらホックに代えてマジックテープその他の着脱自在な係止部材と被係止部材を使用してもよいことは勿論である。

## 【0013】

【発明の効果】本発明は前述した如く、防寒帽の縁部内

周面に固定した固定側係止部材を耳当て不使用時に汗取りベルトで覆うようにしたので、固定側係止部材が頭部に直接当たることがなく、耳当てなしで防寒帽を着用する際の違和感を解消することができる。また固定側係止部材が汗取りベルトで隠されるから、体裁上も好ましいものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 耳当てを分離した状態で示す本発明に係る防寒帽の斜視図。

【図 2】 耳当ての展開平面図。

【図 3】 防寒帽の下面図。

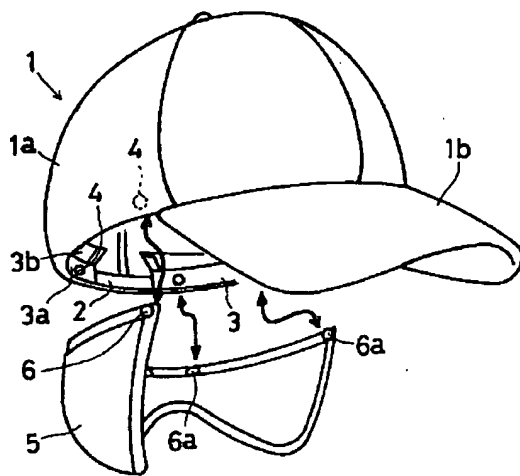
【図 4】 防寒帽の断面図。

【図 5】 防寒帽の要部拡大断面図。

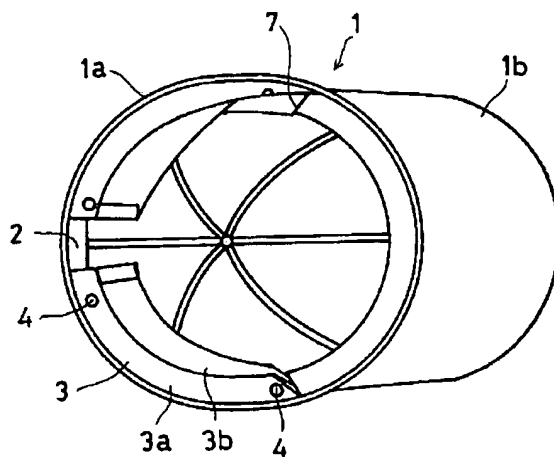
【符号の説明】

- 1 防寒帽
- 1 a 防寒帽本体
- 1 b ひさし部
- 2 縁部内周面
- 3 汗取りベルト
- 4 固定側ホック
- 5 耳当て
- 6 取付け側ホック

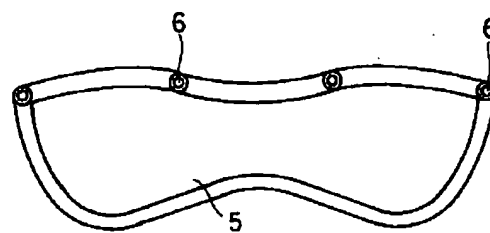
【図 1】



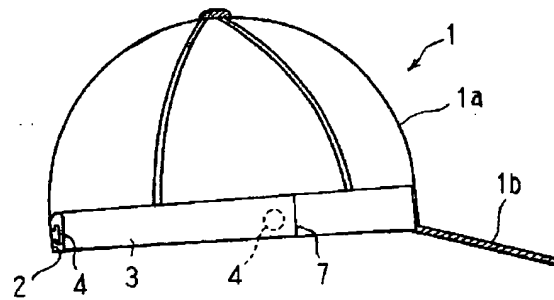
【図 3】



【図 2】



【図 4】



【図 5】

